

その名大口

「情けは人のためならず」

今日は次の言葉を紹介いたします。「情けは人の為ならず」という言葉を知っていますか？ その意味は、「人に情けをかけて助けることは、結局はその人のためにならない」でしょうか、それとも「人に情けをかけるのは、その人のためになるばかりでなく、やがてはめぐりめぐって自分に返ってくる」という意味でしょうか？ 正解は、後者です。できるだけ「人に情けをかけなさい。親切にしてください」という教えです。これは「あの人にこれをしてあげたからこういったことをしてくれて当然」と見返りを求める考えではありません。また、『「情けをかけるのは人の為ではなく自分の為」といふのなら、打算的な考えでよくない」と考えるのも間違いです。なぜ「人に情けをかけ親切にすると、巡りめぐって自分のためになる」のでしょうか？ 各自考えてください。

私はこの言葉に30代のときに出会いました。なるほどと思い、深く心に留めておく言葉にしました。今までの経験のなかで、「情けは人のためならず」を実感しています。

このことと関連して、「無財の七施」（むざいのしちせ）について話をします。仏教では、布施は最も大切な仏道修行です。因果応報の仏教において、「施しは無上の善根なり」です。布施というと、お坊さんにお金をやるイメージですが、仏教で言う布施は「施しをする」すなわち「親切にする」ということです。布施には、「財施」と「法施」、「無畏施」があります。財施とは金銭や衣服食料などの財を施すこと。法施とは仏の教えを説くことです。無畏施とは、災難などに遭っている者を慰めてその恐怖心を除くことです。悩み泣いている友達に寄り添って、慰めたりしている光景をみかけますが、無畏施の実践です。「長者の万灯よりも貧者の一灯」といい、布施の尊さは量には関係ありません。



上は、本校のスクールカウンセラーである肥後義弘先生の1年生への講話（1/24）。「可能性に生きる」という演題で、夢に向かって努力することの大切さ、難しさ、厳しさ…について、さまざまな具体例をあげて話をしてもらいました。

下は、リクルートの佐々木真先生による2年生に対する進路講演会（2/2）。「自己理解・学校探しシート」を使い、進路目標を決定していく一助となりました。



しかし、財がなくても、説法などできなくても、布施はできるのです。それを「無財の七施」（①眼施＝優しい眼差し、

②和顔施（和顔悦色施）＝和やかな顔、③言辞施＝丁寧な思いやりのある言葉、④身施＝礼儀正しい身のこなし、⑤心慮施＝思いやりある心配り、⑥床座施＝自分の席を他人に譲る、⑦房舎施＝人を家に泊めてあげる）といいます。

一歩外に出ると、無財の七施にいたるところで出会います。私は、笑顔さわやかに挨拶してくれる生徒を何人も知っています。その人は眼施（げんせ）や和顔施（わけんせ）の実践で、こちらまでさわやかになり嬉しくなります。そんな人は、功德をいっぱい積んでいるなあと思います。相田みつをさんの、「あなたがそこに ただ いるだけで なんとなくその場の空気があかるくなる あなたがそこに ただ いるだけで みんなのところがやすらぐ そんなあなたに わたしもなりたい」という詩があります。誰にでもできる「無財の七施」を自然にできる人になりたいものです。

新大口塾「ユズリハ」受講の生徒感想 ※同窓会の協力をもらい今年度で3回目となりました

・「人生は即興的に」 勝部ちこ先生 鹿島聖子先生

近い将来のことだけでなく「生き方」そのものを学ぶことができました。将来には不安がなく、すぐく悩んでいましたが、日本には伊佐には自分の好きなことをして生活をしている人もいるんだなど知りました。今回の話で自由な生き方について学ぶことができ、今までの自分がどれだけ小さな世界でしか生きてこなかったのか、わかりました。もっと視野を広くもって生きていきたいです。(2年女子)

・「とあるデザイン屋の経歴ばなし」 小門幸恵先生

今回の話を聞き、人脈づくりやいろいろなことに挑戦することが大切だと思いました。将来はキャラクターデザイナーになりたいと考えています。進学したい専門学校を決めてはいたのですが、大学や短大への進学も考えてみようと思いました。キャラクターデザイナーに向けて、絵だけ頑張るのではなく、勉強もしっかりとし、たくさんの人の話を聞いてみることで、人脈も広がるし物事を違う視点から見る力や想像力が身につくと思います。(1年女子)



今年も多彩な経歴の講師陣

・「私が産まれてきたきた理由(わけ)、貴方が産まれてきた理由」 瀬戸口裕樹先生

今回二つのことを学びました。一つは、産まれてきた理由(わけ)です。「いのちの理由」の歌詞に「悲しみの花の後からは喜びの実が実るように」とありました。咲くも自由、枯れるも自由、強くなっていきたいです。二つ目は、ストレスについてです。どんな人でもストレスは感じるものだと思います。その悩みを一人で抱え込まず、周りと分けあっていきたいです。瀬戸口さんの今までの人生を聞くことができ、とても勉強になりました。上を向いて人生を歩いていきます。(1年女子)

・「運動指導者としての歩み」 土生さとみ先生

「やりたければ自分で創る」という言葉が、私の中で一番印象的でした。今日の話聞いて、仕事がないなら自分で創ることができるんだと思いました。自分で行動することや人と関わることは、いい事だと思います。自分で創ることは難しいけど、人との関わりを大事に生活したいです。また、病気をしたり怪我をしたりするのは、私生活や食生活大きく関わっていると改めて感じました。(1年女子)

・「地域で働く作業療法士について～精神障害者とともに～」 前畑竜郎先生

将来作業療法士になりたい。しかし、なかなか作業療法士の方から話を聞く機会がありませんでした。このような機会をいただき、本当に嬉しいです。作業療法士としての情報の基本から教えていただきました。また、作業療法士しか見えていなかった私の考えに、“地域”という視点もプラスされました。作業をとおして患者さんと繋がるのも大事だけれど、地域と繋がることでもっと大切なことが分かる気がしました。勉強を頑張りながら、地域ボランティアにも積極的に参加していきたいです。(1年女子)

・「アメリカに15年、東京5年、鹿児島に帰って1年目！」 松尾 猛先生

アメリカ・東京・鹿児島と色々な場所に滞在されていて、どんなものを見られてきたのか興味を持ち、この講話を選びました。もともと英語は得意ではなかったと聞き、驚きました。アメリカでの話は知らないことばかりでした。人種・宗教・言語の違いがあること、同じ街の中でも数百人に逢えば危険な街があること、同性愛の人も多いということなど、驚きの連続でした。また、モデルという職業の話もおもしろかったです。今日の話で、海外に行ってみたくてと思いました。周りの友達を大切に、チャレンジ精神を大事にしていこうと思いました。



(2年女子)

1年生も「北予備講座」(1/29, 2/11) スタートです。